



地域密着型金融の取り組み
～平成27年度の取組結果について～

SHIGA BANK

目次

- ・地域密着型金融の推進に関する基本方針 P.1
- ・CSR憲章(経営理念) P.2
- ・地方創生「地域経済への更なる貢献」 P.3～P.5
に関する取り組み
- ・「事業性評価」に関する取り組み P.6～P.8
- ・「3つのブランド戦略」に関する取り組み P.9～P.15
- ・地域密着型金融の推進の数値目標および実績 P.16

地域密着型金融の推進に関する基本方針

地方銀行は地域社会と歩みをともにしており、地域の成長なくして当行の成長はありません。

私たちの使命は「地域社会の未来」を見すえた銀行経営を通じて、CSR憲章にかかげる「共存共栄」を実現していくことです。その実現のために、当行はこれからの10年を展望したあるべき姿を『お客さま・地域とともに未来へ歩む銀行』とし、その第一ステージとして第5次長期経営計画（平成25年4月～平成28年3月）に挑み、その推進を通じて地域密着型金融の推進を図ってまいりました。

具体的には、当行独自の「3つのブランド戦略～知恵と親切の提供～」（「ネットワークのしがぎん」「アジアに強いしがぎん」「CSRのしがぎん」）の実践に取り組み、また3つの視点（「お取引先企業に対するコンサルティング機能の発揮」「地域の面的再生への積極的な参画（地域経済への更なる貢献）」「地域やお客さまに対する積極的な情報発信」）を踏まえて地域密着型金融の推進に取り組んでまいりました。

引き続き、第6次中期経営計画（平成28年4月～平成31年3月）においては、当行が長期的に目指すべき姿を「未来創造銀行『The・ちぎん』』として、地域密着型金融による「地方創生」の実現に取り組んでまいります。

私たちは、伝統ある近江商人の「三方よし(売り手よし、買い手よし、世間よし)」の精神を継承した行是「自分にきびしく 人には親切 社会につくす」をCSR(企業の社会的責任)の原点とし、社会の一員として「共存共栄」を実現してまいります。

(地域社会との共存共栄)

地域とともに歩む銀行として、お客さまの信頼と期待にお応えするため、「健全」と「進取」の精神を貫き、地域社会の発展に努めます。

(役職員との共存共栄)

役職員一人ひとりの人権や個性を尊重し、働きがいのある職場づくりに努め、心身ともに「クリーンバンクしがぎん」の実現に努めます。

(地球環境との共存共栄)

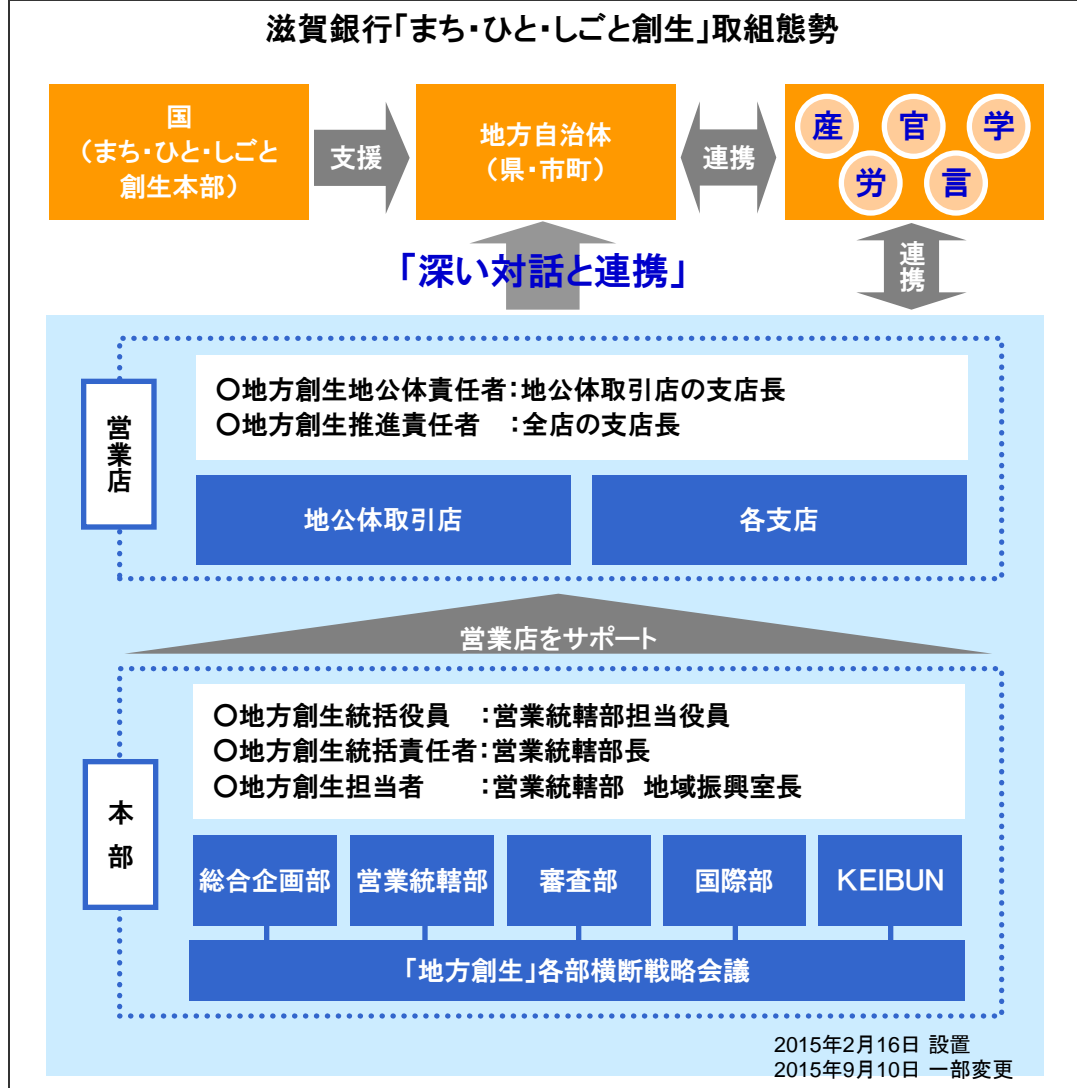
琵琶湖畔に本拠を置く企業の社会的使命として「環境経営」を実践し、地球環境を守り、持続可能な社会づくりに努めます。

地方創生「地域経済への更なる貢献」に関する取り組み(1)

地方創生の深化 ～具体的な事業の本格的推進～

・2015年6月30日に「まち・ひと・しごと創生基本方針2015」が閣議決定され、地方創生の取り組みは地方版総合戦略の策定から具体的な成果を問われる本格的推進の段階に入りました。

- 当行の地方創生の深化に向けた取り組み
- (1) 「稼ぐ力」を引き出す
 - ① 「ものづくり産業」の更なる支援
 - ・地域経済を牽引する「中核企業」の成長支援
 - ② 「地域資源」に磨きをかける（ローカルブランディング）
 - ・観光地域づくり（日本版DMO）の推進
 - ・地域経済イノベーションサイクルによる補助金活用提案
 - ・農林水産事業者への6次産業化支援
 - ・ソーシャルビジネスの育成支援
 - (2) 「地域の総合力」を引き出す
 - ・KPI達成に向けて「深い対話と連携」を実践
 - (3) 「民の知見」を引き出す
 - ・「PPPプラットフォーム」創設に向けた取り組み



地方創生「地域経済への更なる貢献」に関する取り組み(2)

地域活性化に資するお取引先の事業化や事業拡大のお手伝い①

地域経済イノベーションサイクルへの取り組み

- ・当行ではこれまでに、国等の補助金(地域経済循環創造事業交付金)を活用して13事業の創業支援に取り組み、今後も社会的に注目が集まっているソーシャルビジネス等、地域課題の解決に貢献する公共性の高い事業の立ち上げ支援に積極的に取り組んでいきます。

城下町彦根の町屋を宿泊施設に



特定非営利活動法人ひこね文化デザインフォーラム様が、彦根市内の旧市街地で増加している空き家を活用し、宿屋に改装される計画に対し、当行から地域経済循環創造事業交付金を提案し、見事採択されました。
「本町宿」と名付けられた建物は、江戸末期から明治にかけての町家を改装したものです。

クラウドファンディングへの取り組み

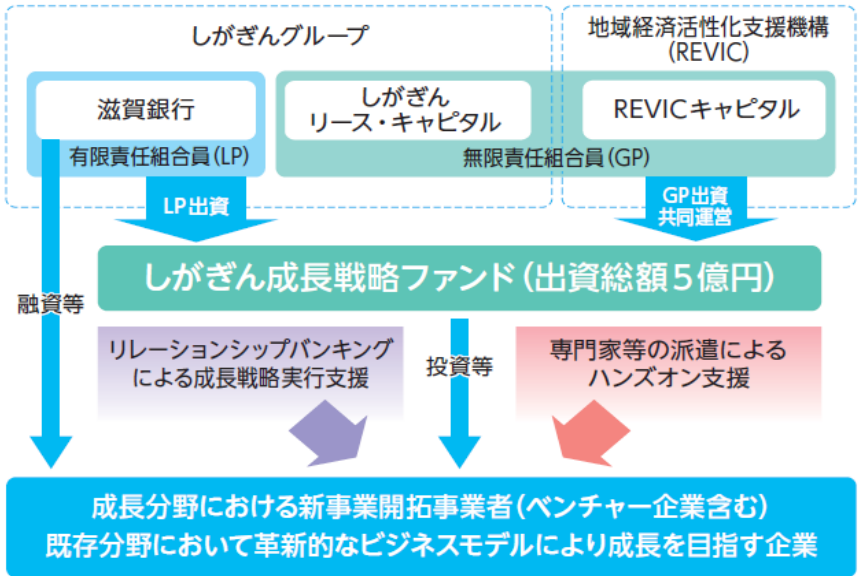
- ・当行は2011年5月に全国の金融機関で初めてミュージックセキュリティーズ株式会社と提携。これまでに18件(13先)の小口ファンドを組成し(2016年3月末現在)、事業者によるクラウドファンディングの手法を通じたファン拡大を応援しています。

地方創生「地域経済への更なる貢献」に関する取り組み(3)

地域活性化に資するお取引先の事業化や事業拡大のお手伝い②

地域経済活性化支援機構との連携ファンド

- ・ 2014年4月に地域経済活性化支援機構と「しがぎん成長戦略ファンド」を設立し、これまでに7社への出資を実行（2016年3月末時点）。ベンチャー企業を含む中小・中堅企業への出資や、成長のためのハンズオン支援によって投資先企業の企業価値向上を目指しています。



しが6次産業化ファンド

- ・ 2014年9月に滋賀中央信用金庫、長浜信用金庫、湖東信用金庫、滋賀県信用組合、農林漁業成長産業化支援機構と共同で「しが農林漁業成長産業化投資事業有限責任組合」を設立（総額5億円）。2015年2月に第一号案件に投資実行。6次産業化事業体への出資を通じて、新たな加工や流通につながる農林漁業の生産性向上等に向けたサポートを行っています。



アグリビジネスローン

- ・ 2014年5月に滋賀県農業信用基金協会の保証付融資「アグリビジネスローン」の取り扱いを開始。農業事業者さまの資金需要に幅広く対応しています。

「事業性評価」に関する取り組み(1)

「事業性評価」への取り組みを進め、お客さまの成長をサポートします①

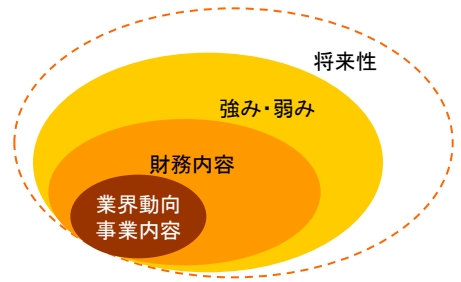
「事業性評価」とは、『お客さまとの日常のコミュニケーションを大切に、業界動向や事業内容を分析した上で、その将来性を評価すること』を指しています。

当行は、担保・保証に必要以上に依存せず「事業性評価」に基づく融資に積極的に取り組んでいきます。

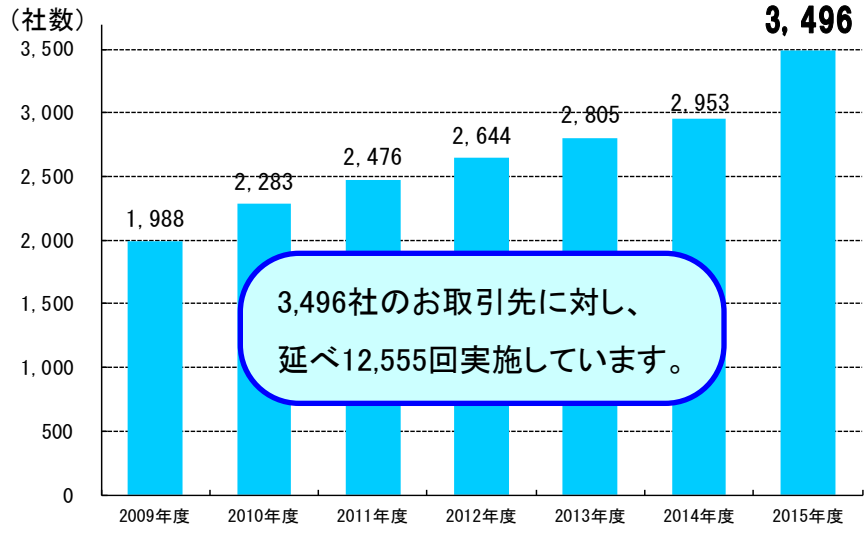
格付コミュニケーション・サービス

- ・ このサービスは「企業格付」をお客さまと当行をつなぐ合理的なコミュニケーションツールと位置付け、2007年8月にスタートしました。
- ・ 2015年9月の書式改正では、これまでの格付プロセスを通じて把握したお客さまの「強み」、「弱み」の共有に加え、それぞれのお客さまの業界動向や事業内容、更にはまだ決算書には現れていない現在の取り組みについても対話を深めるツールへと発展させています。
- ・ 財務ばかりでなく、お客さまの事業にも真剣に向き合い、持続的な経営基盤の構築や企業価値向上を目指してサポートしていきます。

コミュニケーションイメージ

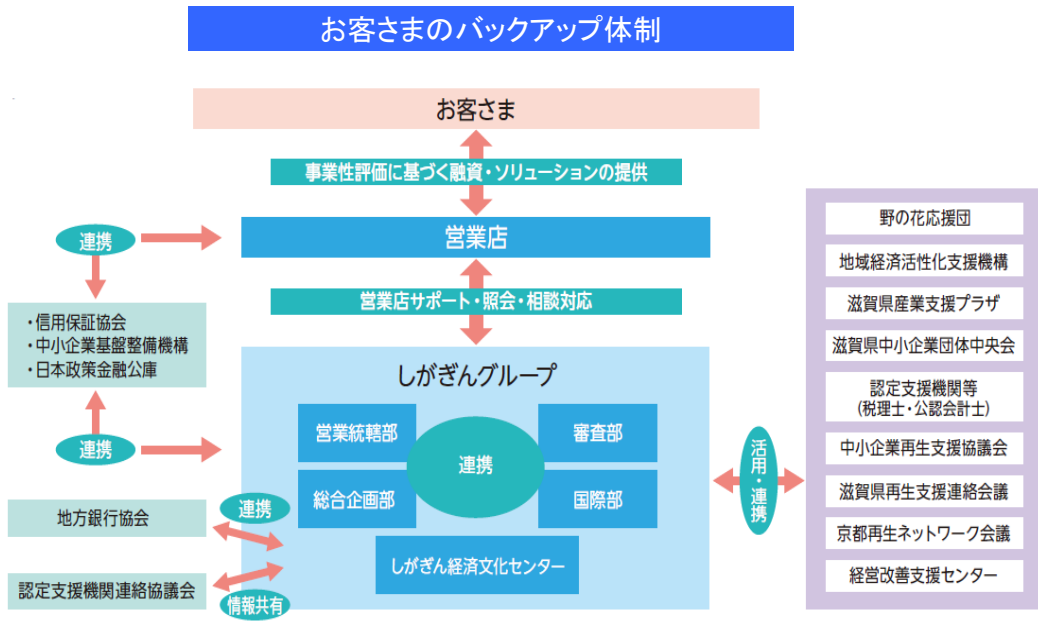


格付コミュニケーション・サービスの実施先累計

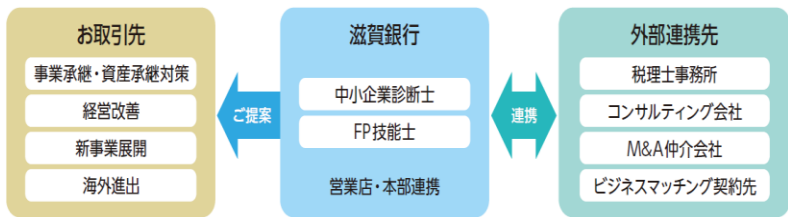


「事業性評価」に関する取り組み(2)

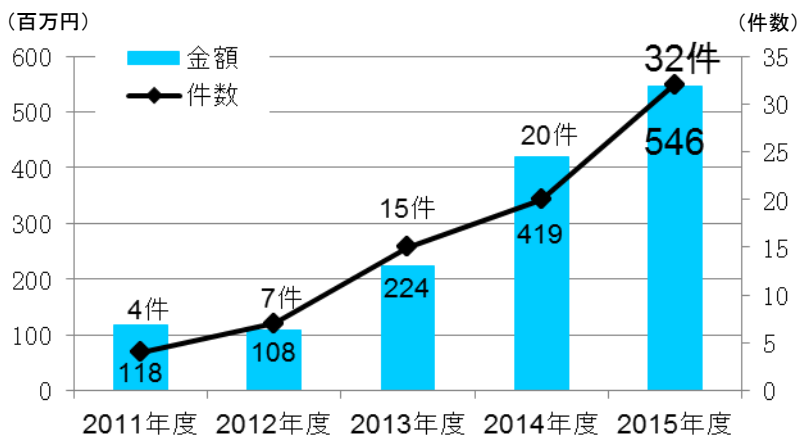
「事業性評価」への取り組みを進め、お客さまの成長をサポートします②



コンサルティング機能の提供



ニュービジネスサポート資金実行実績(単年度)



・ 営業店と営業統轄部、審査部、総合企画部、国際部、(株)しがぎん経済文化センターが連携し、お客さまのご要望や経営状況に応じた「事業支援」ならびに「経営改善支援」に積極的に取り組んでいます。

「事業性評価」に関する取り組み(3)

「事業性評価」への取り組みを進め、お客さまの成長をサポートします③

経営者保証ガイドラインへの取り組みについて

- ・「経営者保証に関するガイドライン」への取り組みにあたっては、金融円滑化の基本方針を定めた「金融円滑化管理方針」において、「経営者保証に関するガイドライン」を尊重・遵守し、適切に対応していく旨を定め、経営者保証に依存しないご融資の促進に努めてまいりました。
- ・引き続き、お客さまとの保証契約の締結や保証債務の整理等に際しては、「経営者保証に関するガイドライン」に基づき、誠実に対応してまいります。
- ・なお、2015年度の実績は下表の通りです。

2015年度の実績【2015年4月1日～2016年3月31日】

項目	件数	
	上期	下期
新規ご融資件数	9,139	8,906
うち、無保証融資件数（注）	1,680	1,477
経営者保証に依存しないご融資の割合	18.38%	16.58%

(注)滋賀銀行は経営者保証ガイドラインの趣旨に鑑み、保証金額にかかわらず、一部でも保証を頂いている場合は、「無保証融資件数」に計上しておりません。

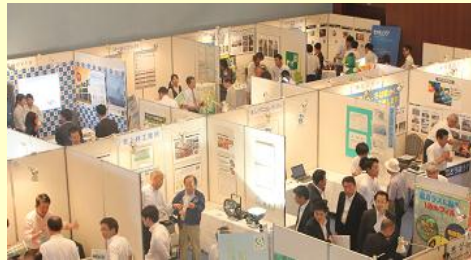
経営者保証ガイドラインへの対応は、①法人と経営者個人の資産・経理が明確に分離されていること、②法人と経営者の間の資金のやりとりが、社会通念上適切な範囲を超えないこと、③法人のみの資産・収益力で借入返済が可能と判断し得ること、④法人から適時適切に財務情報等が提供されていること、⑤経営者等から十分な物的担保の提供があること、等の要件を総合的に判断してまいります。

「ネットワークのしがぎん」に関する取り組み(1)

ビジネスマッチングで「商流」の創出をサポートしています

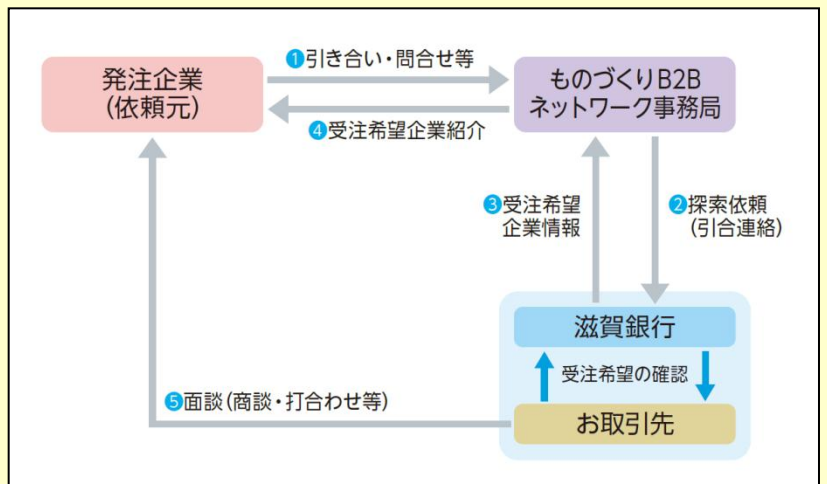
エコビジネスマッチングフェア2016

- ・環境に特化した商談会「エコビジネスマッチングフェア2016」を、2016年7月6日に開催。9回目の開催となった今年は、新エネ、省エネ、リサイクル、環境土木建築、環境ソリューション等の分野毎に88社・団体に出展いただきました。今回は「エコプロダクツ」分野を新設するとともに、昨年に引き続き、「滋賀健康創生」特区ブースを設置。また、金融サポートコーナーでは「クラウドファンディング」の取組事例を紹介しました。



ものづくりB2Bネットワーク

- ・大阪府商工労働部と公益財団法人大阪産業振興機構が運営する「ものづくりB2Bネットワーク」に参加しています。国内外企業のものづくりに関する発注情報をお取引先へ提供し、製造業関連の受注拡大をサポートしています。



「ネットワークのしがぎん」に関する取り組み(2)

起業の夢を強かにサポートします

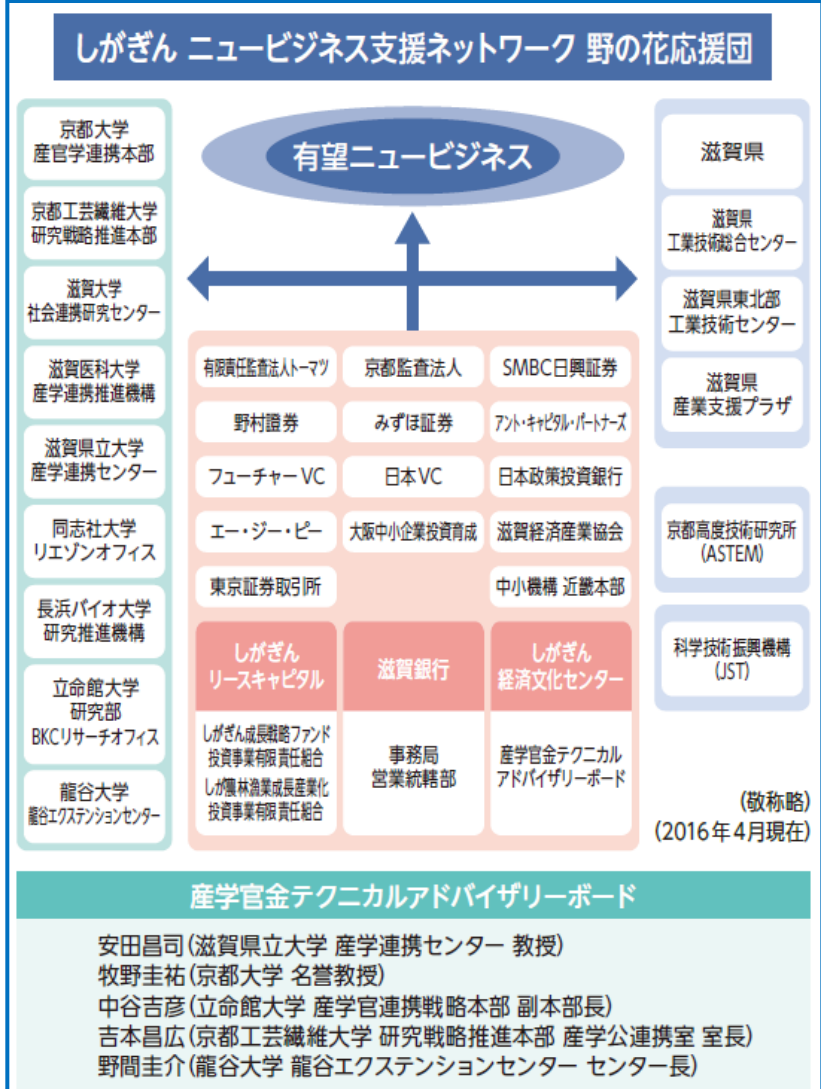
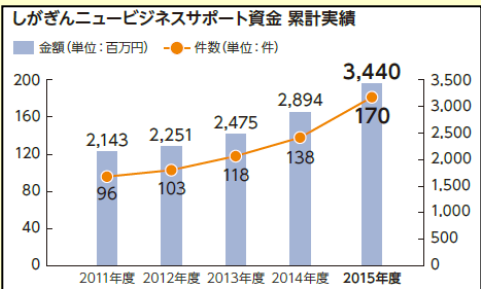
しがぎんビジネスフォーラム「サタデー起業塾」

ヘルスケア・バイオ、地域資源、IoT・FinTech等のテーマに沿って、各分野で活躍されている経営者の講演、専門家によるビジネスプラン策定サポートなどによる創業・第二創業をサポートしています。今年で17年目となる2016年度の「サタデー起業塾」は5月にスタートしました（年5回、土曜日に開催）。



「ニュービジネスサポート資金」と「野の花応援団」

新分野進出や新事業展開に必要な資金をサポートする「ニュービジネスサポート資金（通称 野の花資金）」は、累計170社に対して34億円超を実行しています。新事業進出にかかる資金ニーズの高まり等により、2015年度の年間融資件数は過去最高の水準となっています。



「アジアに強いしがぎん」に関する取り組み

アジアビジネスを積極的にサポートします

近畿で唯一海外に支店を有する地方銀行として

- ・ 当行は近畿で唯一、海外に支店を有する地方銀行として、香港支店で銀行業務を行っています。加えて、上海駐在員事務所、バンコク駐在員事務所、国際部アジアデスク、営業店のネットワークを活用し、お取引先のアジアにおける新たな拠点開設や販路拡大に向け、引き続きサポートしていきます。

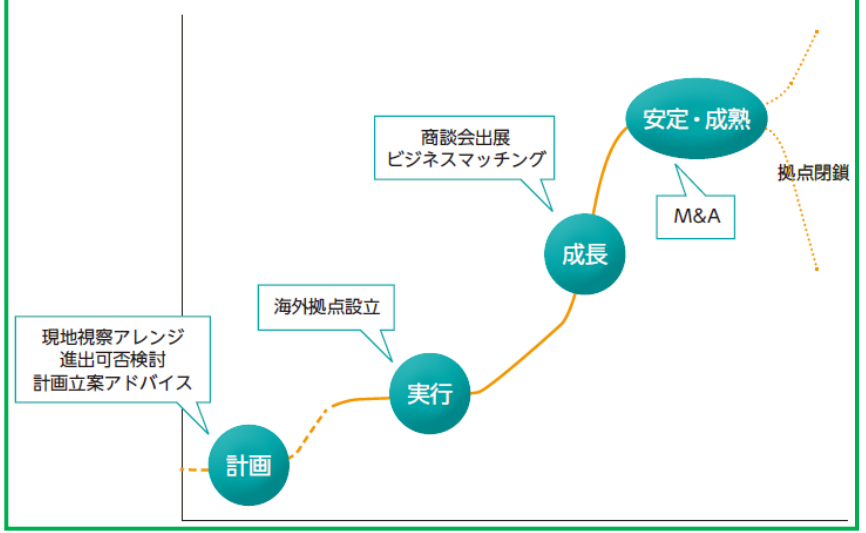
コンサルティング機能の強化

- ・ 地域の潜在力である「稼ぐ力」を引き出すことは、地方銀行に求められる使命です。「地方創生」に向けた国際業務の挑戦は、地域企業の稼ぐ力を引き出すことであり、そのための海外展開支援機能の発揮と深化を目指します。お取引先の海外展開は多様化し、取引も年々活発になっています。当行ではこれまでお取引先の海外展開ニーズやアイデアをキャッチし、営業店、海外拠点および本部国際部が一体となってサポートしてきました。地方自治体や公的機関、民間企業との連携を強化するほか、これまで蓄積してきた海外ビジネスのノウハウ、海外展開支援の実績、支店の機動力を生かした「有償コンサルティング」の提供などを通して、お取引先の海外ビジネスの課題解決につなげています。

金融仲介機能の発揮

- ・ 外貨貸出については、日本企業のグローバル化が進むなか、為替リスクヘッジを目的にしたお取引先の外貨資金の調達ニーズが高まっています。安定的な外貨資金の確保や国内外の提携機関を活用し、お取引先のニーズにお応えしていきます。

コンサルティング業務(海外アドバイザー)

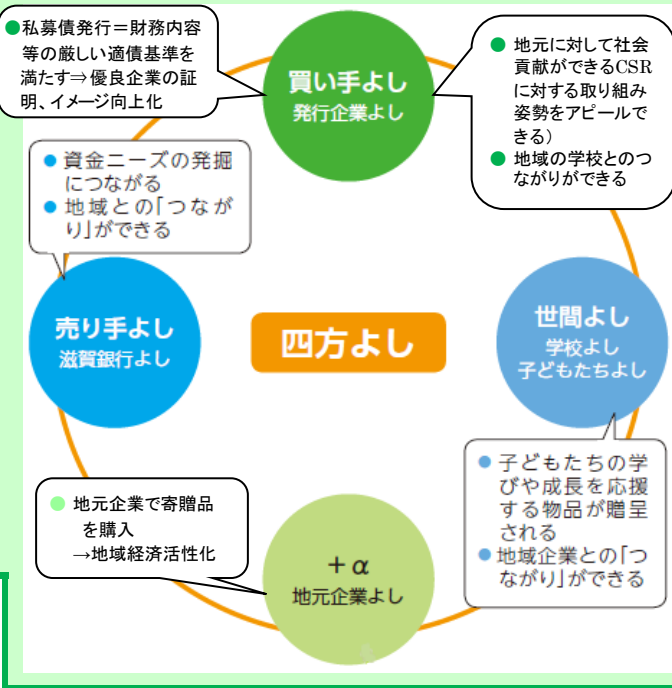


「CSRのしがぎん」に関する取り組み(1)

金融を通じた地域貢献

CSR私募債

- ・2014年11月から、CSR私募債※「つながり」の取り扱いを開始。
本私募債の発行を記念して、発行金額の0.2%相当額を当行が拠出し、「子どもたちの学びや成長を応援する物品」を学校へ寄贈することで、地域社会と子どもたちの「つながり」を応援します。
 - ・2016年6月末までに120件発行いただき、94の小学校等に、あわせて1,790万円相当の寄贈品を贈呈しました。
- ※CSR私募債とは…財務内容等の厳しい適債基準を満たし、かつ当行独自の環境格付「PLB格付」にて一定水準の格付を得られた企業さまが発行されるもの。



「『しがぎん』スポーツ応援定期 未来リーと」

- ・2014年12月、「『しがぎん』スポーツ応援定期 未来リーと」の取り扱いを開始。お客さまにお預入いただいた定期預金残高の0.005%相当額をアマチュアスポーツを支援する「レイクス・スポーツファン」へ寄付するものです。2015年9月、835千円をレイクス・スポーツファンへ贈呈しました。2020年の東京オリンピック・パラリンピック、2024年の滋賀県での国体開催を控え、滋賀県内のスポーツ振興を応援し、地域活性化を図っています。



「CSRのしがぎん」に関する取り組み(2)

地球環境保全を真剣に考えています

● しがぎん琵琶湖原則 (PLB)

琵琶湖をはじめとする地球環境を守るため「しがぎん琵琶湖原則 (PLB=Principles for Lake Biwa) (以下、PLB)」を策定し、この原則への賛同をお取引先に広く呼びかけています。

● PLB 格付

「PLB」にご賛同いただいたお取引先には、当行が独自の評価基準により「環境格付 (PLB格付)」を実施。環境経営に対する気づきのツールとしてご活用いただいています。

しがぎん琵琶湖原則 (PLB) の3原則

- ① 環境保全に役立つ生産・販売・サービス基準を策定します。
- ② 環境配慮行動とビジネスチャンスの両立を目指します。
- ③ 環境リスクを軽減し、持続可能な地域社会を実現します。

● 融資でお取引先の環境保全をサポート

実際に環境保全に役立つ製品・サービスの開発や省エネ設備などを導入される場合には、「琵琶湖原則支援資金 (PLB 資金)」によってご融資。

環境格付の取り組み度合いに応じて最大で金利を年0.5%引き下げます。



● 融資で生物多様性保全を普及

お取引先の生物多様性保全に向けた活動をサポートするため、2009年、全国の金融機関で初めて当行独自の「生物多様性格付 (PLB格付BD)」を策定しました。格付は「豊かな生物多様性の継承と自然共生社会の構築」に賛同し、格付取得を希望されるお取引先の「生物多様性配慮」の取り組みについて一定の指標により測定・評価します。

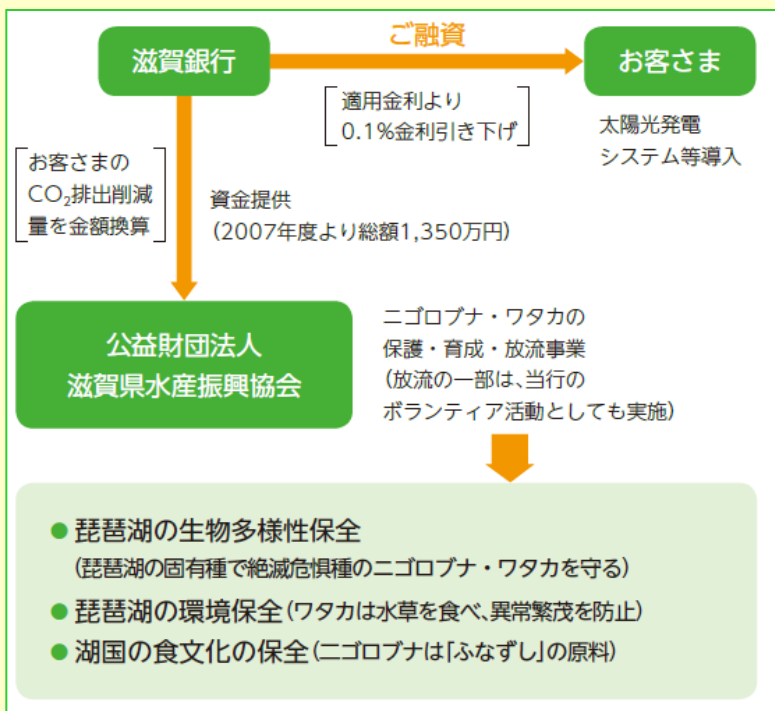
※BD=biodiversity (生物多様性) の略



「CSRのしがぎん」に関する取り組み(3)

カーボンニュートラルローン 未来よし

「カーボンニュートラルローン 未来よし」は、自然エネルギーの導入を促進し、琵琶湖の環境と生態系を取り戻すことを目的とするサービスです。

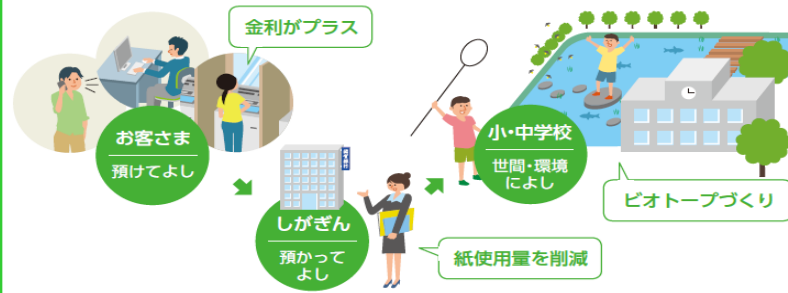


金融を通じた環境保全

エコプラス定期

ダイレクトチャネル(ATM、電話、インターネット)で定期預金をお預入いただく「エコプラス定期」は、1回のお預入ごとに7円(不要となる申込用紙相当額)を当行が拠出し、滋賀県内の小・中学校へ「学校ビオトープ」づくりの資金として毎年助成し、環境学習に活用いただいています。なお、2013年度より「ネット投信」において「電子交付サービス」をご契約いただくことによる紙資源削減相当額(1件につき100円)についても、おなじく拠出、助成をしています。これまで33の小・中学校に総額1,579万円を助成しました。

近江商人の「三方よし」の考え方で商品企画



「CSRのしがぎん」に関する取り組み(4)

ストーリー性のある“いきものがたり”活動

琵琶湖の水質を守り、魚の産卵場所となるヨシ群落を守り・育て、琵琶湖の固有種で絶滅危惧種のニゴロブナ・ワタカを保護・育成・放流し、侵略外来魚を駆除するなど、滋賀県ならではの“いきものがたり”活動を展開しています。

ヨシ苗植え



ヨシ刈り



“いきものがたり”
活動



外来魚駆除・釣り



ニゴロブナ・ワタカの放流

地域に根ざした環境ボランティア活動を展開

森づくりサポート活動

当行は、「びわこ地球市民の森(守山市)」で創立70周年(2003年10月)を記念して1万本の苗木の植樹を行って以来、継続的に植樹を実施。総数は21,480本となりました。あわせて、除草や枝打ちなどのメンテナンス作業も毎年実施しています。

この長年の取り組みに対して、2016年5月29日、「『びわこ地球市民の森』植樹完了記念知事表彰」で、滋賀県から感謝状をいただきました。



地域密着型金融の推進に関する数値目標および実績

地域密着型金融の推進に関する数値目標および実績について

地域密着型金融の推進に関し、2016年3月末の数値目標に対する実績は下記のとおりとなりました。

「3つのブランド戦略～知恵と親切の提供～」に関する取り組み

取組項目	2016年3月末 目 標	2016年3月末		地域密着型金融の推進に関する3つの視点		
		実績	進捗率 (%)	お取引先企業に 対するコンサル ティング機能の 発揮	地域の面的再生 への積極的な参 画（地域経済へ の更なる貢献）	地域やお客さま に対する積極的 な情報発信
1. 「ネットワークのしがぎん」に関する取り組み						
ビジネスマッチング商談件数 ★	3,000 件	4,111 件	137.0%	○	○	○
ニュービジネスサポート：コーディネート活動件数	150 件	270 件	180.0%	○	○	○
事業性融資先お取引先数	18,000 先	19,143 先	106.3%	○	○	
事業性 評価	格付コミュニケーション・サービス実施先数（累計） ★	3,200 先	3,496 先	109.2%	○	○
	経営改善計画策定支援先数（累計） ※1	3,000 先	3,258 先	108.6%	○	○
2. 「アジアに強いしがぎん」に関する取り組み						
海外ビジネスサポート件数 ※2 ★	4,300 件	6,010 件	139.7%	○		○
海外商談会、セミナー、ミッションの実施回数	30 回	46 回	153.3%	○		○
3. 「CSRのしがぎん」に関する取り組み						
PLB資金、エコ・クリーン資金実行件数 ※3	600 件	643 件	107.1%	○	○	○
エコプラス定期取り扱い件数、ネット投信電子交付サービス契約件数（合計）	500,000 件	430,056 件	86.0%		○	○
ボランティア活動参加延べ人数 ★	7,500 名	7,739 名	103.1%		○	○

★印は第5次長期経営計画の地域貢献目標として掲げている項目です。

※1 経営改善計画には、当行所定の「ご相談シート」による簡易な計画も含まれます。

※2 国際部アジアデスクおよび当行の海外拠点（香港支店、上海駐在員事務所、バンコク駐在員事務所）によるサポート。

※3 PLB資金・・・「しがぎん」琵琶湖原則（Principles for Lake Biwa）支援資金。